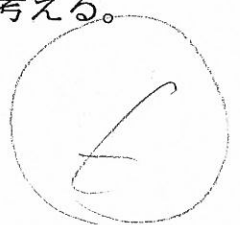


「災害に強い地域を創る部会」が構想する活動

臨時部会リーダー代行 鈴木 為 之

- ◆キーワードは「高齢化社会」「安否確認」「つながり」の三つ。
- ◆「高齢化社会」は、一人ひとりの能力の低下は免れないが、地域にとって日常の在住者が増えるのが逆に強みとなる。一人ひとりの能力の低下を補うのは、人の「つながり」であり、いざのときに頼りになるのは男女を問わず元気な地域在住者である。
- ◆発災時最も大切なことの一つは、向こう三軒両隣の声掛け「つながり」、そして「安否確認」である。
- ◆平常時から向こう三軒両隣で、声掛けできる環境を作り、平常時は、見守りや生活支援等の地域福祉活動に役立て、発災時はまず「安否確認」から始まって、必要な際の緊急避難、生活支援ができる小さなコミュニティを作る。
- ◆小さなコミュニティの情報が集まって自治会・町内会の情報となり、地域の防災拠点（避難所）の活動につながる。
- ◆向こう三軒両隣の小さなコミュニティを作るには、・・・
潜在意識を顕在化させる（無意識のうちにあるレベルまでは出来ている）。
小さな事柄でも意識をその方向に向かわせることが最良の方法と考える。
元気な高齢者の参加を得るには、・・・機会あるごとに声かけを。



互 近 助

非常時にはお互いに近くの人で助け合う

向こう三軒両隣で日頃から顔見知りになっておこう
(過去の災害で一番頼りになったのはご近所の人たち)

互近助に気付いて、互近助グループが出来て

